

MEDCOAST2019 (トルコ・マルマリス)参加報告

柳 哲雄

国際エメックスセンター科学・政策委員

トルコで(NPO) MEDCOAST により開催される「沿岸域統合管理」の国際会議に出席するために、10月20日(日)15時に松山を発って、16:30羽田着。2時間かかって電車で成田へ。3時間半待って、成田を22時に発ち、シベリア上空を通過して、11時間半の飛行の後、現地時間夜中の3:30にトルコ・イスタンブール着。日本とトルコの時差は6時間なので、日本時間は10月21日(月)朝9:30。5時間半空港で待って、9時イスタンブール発、1時間半かけて、トルコ南西部のダラマンへ飛ぶ。ダラマンに着いてから、同じ会議に参加する各国の人々約15名の集合を待ち、11時にダラマンからマイクロバスで1時間半かけてマルマリスまで。松山を出てから、27時間30分経過、トルコ時間10月21日(月)昼12時30分、ようやく目的地の、エーゲ海に面したリゾート地マルマリスに到着した。

昨晩は飛行機の中でほとんど眠れなかったので、ホテルで昼食をとった後、ひどく眠くなった。しかし、今寝たら、夜中に目が覚め明日が大変なので、散歩したり、スーパー・マーケットの値段探検をしたりして、なんとか夕方まで起きていた。18:30からホテルの夕食時間なので、レストランに行き、バイキング形式の料理の中から野菜・焼き魚・パンを選び、ビール・赤ワインで夕食をとった。この四つ星ホテルは、部屋にはダブルベッドとシングルベッド、二つのトイレ付シャワー室があり、三度の食事はビール・ワイン付きで、すべてが部屋代に含まれていて、1泊50ユーロ(約8千円)と、非常に安い。ゆっくり食べて、飲んで、20時頃ベッドに入り、朝3時頃一度目が覚めたが、なんとか一晩良く眠れて、次の朝を迎えることが出来た。

イスタンブール空港で次の飛行機を待ちながら、空を眺めていたら、トルコのこの時期は朝が明けるのが遅く、7時頃ようやく空が明るくなってきた。夕方は19時頃真っ暗になる。

22日(月)朝、会議の登録を済ませ、午前中は開会式。主催者の Ozhan 教授が、この NPO の1990年設立以来の歴史を簡単に紹介。地中海の沿岸域管理手法の確立を目指し、2年に一度学会を開催し続け、今回が14回目とのこと。出席者は当初の約300名から減少を続け、今回は約100名。なんとなく、昔の同志の同窓会という雰囲気である。

午後は2会場に分かれ、一つの会場が「沿岸域統合管理と里海」セッションに割り当てられた。約40名の参加者を得て、最初が私の発表「里海と沿岸域統合管理」で、18分喋って2分の質疑応答時間があった。「里海では藻場に対して、どのような人手をかけるのか？」という質問がオランダの海岸工学者から出た。次は近畿大の日高教授が「里海同士の連携をどう作るか」という話題を提供し、「イギリスの海岸保全法には、漂砂の問題を解決するために、海岸同士の対策連携を義務付けたものがあるが、それが参考になるのではないか」という有意義なコメントがあった。次いで、フランスの社会学者から「地中海の海洋戦略大綱指針の制定と実施状況」に関する報告があった。そして、日本の海洋政策研究所の G さんから「東アジアと地中海の海洋環境保全管理体制の比較」の発表があり、「地中海では各国が従わなければならない条約があるが、東アジアには勧告しかない」という指摘があった。

その後、海洋空間計画法、沿岸海域の流動・水質モデルの進化、高分解能沿岸海況予報モデルの開発、海洋観測データの統合収集システム、ドローンで撮られた3次元映像処理法、に関する話題提供があった。総合討論では「6年前にこの同じホテルで Satoumi の話を初めて聞いて感銘したが、着実に進展していることを知り、興味深い」というイギリスの参加者からのコメントがあった。

6年前の2013年秋、今回の会議を主催した MEDCOAST と日本の EMECS の共同国際会議を、ここマルマリスの同じホテルで開催し、半日間の Satoumi Workshop をやったことを思い出した。当時 NHK が里海の1時間番組を作っていて、この Workshop を撮影するためにディレクターとカメラマンを派遣した。その経過は角川新書「里海資本論」で紹介されている。夜は歓迎レセプションで、ヨーロッパの何人かの知り合いと近況をしゃべりあって、なごやかな夜を過ごした。

23日(火)午前前半は、私の座長で、「沿岸域統合管理に関するいくつかの問題」セッションがあっ

た、後半はポスターセッション発表時間に割り当てられ、午後はトルコ文化紹介ツアーがあり、夜はトルコ舞踊などの文化ショーを観覧しながらの食事会が行われた。

24日（水）は午前、午後、それぞれ2会場に分かれて、通常のセッションが行われた。夜は自由時間となった。

25日（木）午前には Ozhan 教授から「地中海と黒海での沿岸域統合管理でこの30年に成し遂げられたこと、残った課題」に関する報告があり、その後、総合討論が行われた。午後は学生に対する教育セッションが行われた後、閉会式が行われた。夜はさよならパーティを兼ねた食事会が行われた。

26日（金）は、ホテルを朝9時にバスで出発し、夕方6時にホテルに帰るというテクニカル・ツアーが行われた。訪問先はダリアンの原生自然デルタで、今まさに埋め立てられつつある河口域で非常に印象的だった。Ozhan 教授から「日本にこんな所はあるか」と聞かれ、「とっくに埋め立てられ、皆無だ」と答えた。

27日（土）は夕方にマイクロバスでホテルを出発し、ダラマン空港。夜9時の飛行機で発ち、10時半にイスタンブール着。2時間半待ち、夜中の2時にイスタンブールを発って、日本時間28日（日）の20時に成田に着いた。それから2時間電車に乗って羽田空港。空港そばのホテルに宿泊。10月29日（火）の朝7時半の飛行機で松山へ。9時に無事着陸して、長い海外出張が終わった。